

米ホワイトハウス「科学の新黄金時代」イニシアチブの全貌と日米科学技術戦略の比較分析

Gemini 3.8 Flash

2026年10月米ホワイトハウス科学イニシアチブの背景と基本理念

2026年10月8日、米ホワイトハウスはワシントンD.C.で開催された「科学：新たな黄金時代 (Science: A New Golden Age)」サミットにおいて、総額60億ドル(約9,480億円)超に達する包括的な科学振興イニシアチブを発表した¹。本イニシアチブは、大統領科学技術政策局 (OSTP) 局長のマイケル・クラツィオスが2026年7月21日に大統領へ提出した同名の戦略報告書「Science: A New Golden Age」の提言を直接具現化したものである⁴。

本構想の根底には、第二次世界大戦末期の1945年にヴァネヴァー・ブッシュが提示した歴史的報告書「科学：果てしなきフロンティア」に端を発する、いわゆる「線形イノベーションモデル」からの明確な決別が存在する⁵。線形モデルは、連邦政府が大学などの学術機関に対して自由な基礎研究資金を配分し続けられ、市場原理を通じて自律的に応用研究や産業競争力へと結実するという前提に立脚していた⁵。しかし、米国の総研究開発費 (R&D) の約75%を民間セクターが占め、基礎研究費の35%以上を民間企業が支出する現代において、先端計算資源や実証環境の主導権は大学から民間巨大テック企業へと不可逆的にシフトしている⁵。

こうした産業構造の地殻変動と中国をはじめとする国家間の地政学的競争の激化を受け、ホワイトハウスは科学研究を「国家主導のミッション指向型アプローチ」へと再定義した⁵。従来のピアレビュー(査読)制度が陥っていた合意形成偏重、保守的な低リスク研究への偏向、膨大な間接経費要求や事務的摩擦を打破し、人工知能を単なる道具ではなく科学的発見の核心エンジンたる「超知能 (Super Intelligence: SI)」へと格上げし、国力直結型の研究開発を強権的に推進する体制へと舵を切ったのである⁴。

本発表に先立つ2026年10月4日には、京都で開催された第23回「科学技術と社会 (STS) フォーラム」年次総会において、日米英など17カ国が「科学の黄金時代に向けた京都ビジョン (Kyoto Vision for a Golden Age of Science)」に合意した¹¹。今回の60億ドル超のイニシアチブは、この国際枠組みの米国本土における具体的実装フェーズとして位置付けられている⁵。

イニシアチブの多層的投資構造と主要施策の全貌

ホワイトハウスが発表した60億ドル超のパッケージは、単一の連邦予算枠ではなく、連邦政府諸機関の助成金、民間巨大テック企業の現物出資(計算資源・ツール枠)、州政府および民間慈善団体の共同出資を組み合わせた立体的な資金動員構造を採用している¹。

主要プログラム・構成要素	動員規模・資産形態	主導機関 / 主要参画主体	具体的目標および技術的到達点
--------------	-----------	---------------	----------------

ジェネシス・ミッション・コンソーシアム	24億ドル相当(クレジット供与)	エネルギー省(DOE)、OSTP、民間11社	連邦15機関の研究者へ最先端SI基盤、GPU計算資源、独自解析ツールを無償提供 ³
地域計算インフラハブ創設	10億ドル超(官民・州政府共同)	ジョージア州政府、南東部・カロライナ地域大学群	地方中核大学と産業界を直結する分散型ハイパースケール計算拠点の整備 ³
量子情報科学(Quantum Genesis Q等)	2億8,100万ドル(DOE: 2.15億ドル / NSF: 6,600万ドル)	エネルギー省(DOE)、全米科学財団(NSF)	100~200論理量子ビットの実証コンペ、PQC(耐量子暗号)移行の2030年加速 ¹
仮想生物学イニシアチブ(Bio Genesis)	18億ドル	国立衛生研究所(NIH)、DOE、Chan Zuckerberg Biohub	疾患応答や標的創薬を予測する高精度「仮想細胞(Virtual Cell)」モデリング基盤の確立 ⁵
宇宙原子力推進・電力システム	非公開(NASA・DOE共同枠)	NASA、エネルギー省(DOE)	2028年火星打上げウィンドウを標的とする核分裂宇宙船実証機「SR-1 Freedom」および月面炉「LR-1」 ¹
自律型実験室(Self-Driving Labs)整備	5億ドル超(新規1億ドル+7月発表分4億ドル)	全米科学財団(NSF)、DOE	能動学習とロボティクスを融合したクラウド型完全自律実験環境の構築 ³
制度改革・メタサイエンス推進(X-Labs)	18億1,000万ドル(NSF: 15億ドル / 民間等: 3.1億ドル)	NSF、DOE、NASA、国防総省等	規律横断型研究機関「X-Labs」の設置、助成審査革新(ゴールデン・チケット等)の実験 ⁵
選抜型人材育成パイプライン	1億ドル超(Genesis Fellowship等)	NSF、DOE(Battelle協賛)、NIH	4年一貫型SI融合博士課程、学部・博士6

			年一貫制、数学的資 質に基づく英才教育 ³
--	--	--	-------------------------------------

超知能（SI）インフラの動員と産業界の参画構造

本政策パッケージの中核を成すのは、民間11社が総額24億ドル相当の計算資源およびツールを拠出する「ジェネシス・ミッション・コンソーシアム（Genesis Mission Consortium）」である³。この枠組みでは、連邦政府が直接巨額のハードウェア購入予算を執行するのではなく、民間プラットフォームマーが保有する計算能力を国家プロジェクトへ直接組み込むスキームが構築された³。

参画企業	拠出規模	主な提供形態および役割
NVIDIA	10億ドル	GPU計算能力（Hashrate）および最先端ツールクレジット ³
AMD	5億ドル	高性能プロセッサに基づく計算資源クレジット ³
OpenAI	2億ドル	生成モデルおよび先端研究支援ツールクレジット ³
Anthropic	1億5,000万ドル	Claudeをはじめとする高度AIモデル利用枠および連邦15機関向け技術支援 ³
Google	1億5,000万ドル	クラウド計算資源および独自解析ツールクレジット ³
AMP	1億ドル	AIインフラストラクチャおよび計算資源 ³
Emerald AI	1億ドル	特化型AIサービスおよびツールクレジット ³
AWS	5,000万ドル	クラウドインフラ計算資源クレジット ³
Armada	5,000万ドル	分散型エッジ計算資源クレジット ³
Crusoe	5,000万ドル	クリーンエネルギー連動型AI

		クラウド計算資源 ³
Micron	5,000万ドル	先端メモリ技術および開発 ツールクレジット ³

連邦政府はこれら民間資産を15以上の連邦機関に属する研究者へ直接配分し、先端材料、高エネルギー物理、気候動態シミュレーションなどのボトルネックを計算機科学的に一举に突破する態勢を構築した⁵。さらに、ジョージア州において州政府、大学群、民間産業界が連携して10億ドルを投入する計算ハブをはじめ、南東部10州の14以上の大学コンソーシアムやノースカロライナ・サウスカロライナ両州の5大学ハブなど、連邦全土に分散型計算インフラを確立している³。

物理フロンティアの攻略と大型国家ミッション

計算資源の拡充と並行して、物理フロンティアの制覇に向けた国家ミッションが設定されている。DOE主導の「Quantum Genesis Q」コンペティションでは、2億1,500万ドルの資金を用い、フェーズI（最大150万ドル）からフェーズII（100論理量子ビット達成に対する1億ドルのインセンティブプール、150ビットおよび200ビット達成に対する各5,000万ドルのボーナスプール）へと段階的に報奨金を供与する挑戦的調達方式が採られた¹⁷。これはブロックチェーンや基幹通信暗号を脅かす誤り耐性量子計算の実現時期を見据え、耐量子計算暗号（PQC）への連邦移行期限を2035年から2030～2031年へ前倒しする大統領令と緊密に連動している¹⁷。NSF側でも量子応用と合成多細胞性を対象とする各3,300万ドルの「グランド・リサーチ・チャレンジ」懸賞金プログラムを同時展開している¹。宇宙原子力分野では、NASAとDOEの共同開発による核分裂推進宇宙船「Space Reactor-1 (SR-1 Freedom)」が2028年の火星打ち上げウィンドウを照準に据え、月面極域クレーターでの定常電源となる「Lunar Reactor-1 (LR-1)」の開発も加速されるなど、アポロ計画やマンハッタン計画に比肩する象徴的プロジェクトが複数配置されている¹。さらにバイオメディカル分野では、NIH、DOE、およびChan Zuckerberg Biohubの共同出資による18億ドル規模の「仮想生物学イニシアチブ」を展開し、SIモデルを用いて細胞応答や創薬介入を予測する国家ミッション「Bio Genesis」を推進している⁵。

メタサイエンスの導入と研究制度の抜本改革

本イニシアチブの構造的特徴は、研究費の配分方式そのものを科学的検証の対象とする「メタサイエンス（科学の科学）」の本格導入である¹。NSF、DOE、NASA、国防総省は共同で助成プロセスの摩擦低減実験を開始した⁵。合意形成型パネル査読がもたらす革新的研究の排除を克服するため、単独審査員が直感と裁量で極限の高リスク課題を採択できる「ゴールデン・チケット」方式や、数ページの申請書から1カ月以内に交付を決定する「ファスト・グラント」制度が導入された⁵。組織形態の刷新として、NSFが提唱した15億ドル規模の「X-Labs構想」に対し、民間および慈善組織から新たに3億1,000万ドル以上の計測機器・施設提供を取り付け、規律横断型研究機関群を発足させた⁵。X-Labsは既存の大学の学部・学科構造に縛られない独立組織として設計され、多分野の科学者とエンジニアが特定の技術課題へ機動的に集中できる環境を提供する⁴。また、能動学習アルゴリズムとロボティクスを統合した「自律型実験室（Self-Driving Labs）」に対してNSFとDOEが1億ドル以上を直接投じ、人間を介さず24時間体制で仮説生成から合成・物性評価を反復する基盤を確立している³。

能力主義に基づくエリート人材育成への回帰

人材パイプラインにおいては、従来の多様性・公平性・包括性（DEI）を重視した配分基準を明確に撤

廃し、数学的・論理的資質に基づく厳格な選抜型エリート教育への転換が宣言された⁴。1996年に途絶していたNSFの初等・中等向け「ヤング・スカラーズ・プログラム」を民間慈善資金により復活させ、DOE国立研究所での高校生実習を実施する一方、高等教育ではSIと自然科学・工学の二重専門性を4年間で獲得する「ジェネシス・ミッション・フェローシップ」(1億ドル規模)や、学部から博士課程を6年間で一貫修了させる短縮プログラムを整備している³。

日本における対応施策と戦略的展開

米国がトップダウンの国家動員モデルへと急傾斜するなか、日本も2026年度から始動した「第7期科学技術・イノベーション基本計画(2026～2030年度)」において、科学研究のあり方そのものを変革する中核概念として「AI for Science」を明確に位置付けている²⁰。

第7期基本計画と文部科学省「AI for Science」プログラム

文部科学省は2026年3月31日に「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」を策定し、令和7年度補正予算において総額370億円規模の「AI for Scienceによる科学研究革新プログラム」を措置した²⁰。本事業は、集中投資を行う「プロジェクト型」と裾野を拡大する「萌芽型」の二層構造で設計されている。

プロジェクト型に位置付けられる「AI for Science革新的研究推進事業(ARISE)」は、科学技術振興機構(JST)に造成された320億円規模の基金枠(3年基金事業)を原資とし、特定ターゲットに集中投資を行う²⁴。物質創製において開発速度を従来比10倍に引き上げる「AI駆動マテリアル開発システム」や、生体デジタルツインを構築する「バイオ生成基盤モデル」、大型放射光施設等の自動・自律運転化などをターゲットに据える²⁴。AI研究者とドメイン研究者が対等に率いる「CO-PI体制」を要件とし、1課題あたり20億～60億円規模の資金を配賦する²⁴。

一方、萌芽型として設計された「AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業(SPREAD 1000)」は、50億円規模の予算を用い、全学術分野の個別研究者を対象に年約1,000件(1課題あたり上限500万円)をスピード採択する²⁰。審査にはランダムサンプリング(一部抽選方式)を含む挑戦的手法が採られ、AI利活用の初心者に対しても技術的な伴走支援を提供するなど、研究コミュニティ全体のデジタルリテラシー底上げを図っている²⁰。

経済産業省「GENIAC」とフィジカルAIへの拡張

計算資源のインフラ層では、理化学研究所を中心としたスーパーコンピュータ「富岳」の後継機「富岳NEXT」(次世代AI・HPC融合プラットフォーム)の開発が進められている²⁰。

また、経済産業省とNEDOが主導する「GENIAC(Generative AI Accelerator Challenge)」は、第1期から第4期(2026年度採択16件)へと展開し、初期の基盤モデル開発へのGPU利用料補助から、産業界の保有データを学習可能化する「AI-Ready化」、ロボティクスと融合した「Physical AI」、懸賞金型コンペ「GENIAC-PRIZE 2026」(最大6.3億円の賞金と4億円相当の計算資源)へと支援領域を実業側へ拡張している³²。日本が強みを持つ製造現場、産業用ロボット、精密機器から得られるリアル空間のデータをAIモデルに直結させる取り組みが進んでいる²⁴。

大学ファンドと重点技術育成の推進体制

巨視的な大学研究基盤としては、JSTが運用する10兆円規模の「大学ファンド」が存在する³⁸。2025年度には運用益が過去最高となる3,158億円(収益額ベースでは1兆1,822億円)を記録し、第1号認定の東北大学(年約154億～169億円)、第2号の東京科学大学(年約124億円想定)、第3号として2026年8月に認定された京都大学(年約200億円規模想定)に対し、最長25年間にわたる長期安定的助成が行われている³⁸。さらに、破壊的イノベーションを狙う「ムーンショット型研究開発制度」(総

額1,000億円超の基金)や、先端重要技術の流出防止と育成を兼ねる「経済安全保障重要技術育成プログラム(K-Program)」(5,000億円基金)が並行稼働している⁴⁵。

日米戦略的パートナーシップによる政策的連結

注目すべき点として、日米両国の施策は独立して並走しているのではなく、二国間協定を通じて直接連結されている。2026年6月4日、文部科学省、経済産業省、および米エネルギー省(DOE)は、米国の「ジェネシス・ミッション」と日本の「AI for Science」の連携に関する意向表明書(SOI)に署名した⁵⁰。

日本はジェネシス・ミッションにおける「初の国際パートナー」として参画し、双方が今後5年間で各5億ドル(日米合計で10億ドル／約1,600億円)を拠出することで合意した⁵¹。この合意に基づき、量子情報科学、核融合技術、バイオテクノロジー、重要マテリアル、素粒子物理学、自動実験ラボなど11分野において共同研究チームが結成され、富岳と米国立研究所のスパコン群を相互接続する共同研究基盤が整備されつつある⁵¹。

日米科学技術イニシアチブの比較分析

日米双方のイニシアチブは、「科学研究プロセスのAI駆動型刷新」という目的を共有しながらも、その推進メカニズム、財政的構造、制度哲学において対照的な構造を持つ。

比較項目	米国: Science A New Golden Age / Genesis	日本: 第7期基本計画 / AI for Science・GENIAC
主たる財源と投下形式	官民混成(国費助成+巨大テックによる24億ドルの計算資源「現物供与」) ⁵	財政資金主体(補正予算による基金造成、委託費、国費によるGPU調達補助) ²⁴
資金配分メカニズム	ゴールデン・チケット、ファスト・グラント、高額マイルストーン懸賞金 ⁵	プロジェクト型委託(CO-PI)、SPReAD(ランダム抽出併用)、大学ファンド運用益 ²⁴
戦略的優先領域	宇宙原子力、誤り耐性量子、仮想細胞、核融合、自律実験 ¹	AI駆動マテリアル、創薬・バイオ基盤、Physical AI(ロボティクス)、富岳NEXT ²⁴
民間・産業界の関与	テック企業がインフラ提供者兼共同設計者として最前線で主導 ⁴	産業界の保有データの「AI-Ready化」支援、コンソーシアム型実証 ²⁸
査読・ガバナンス思想	メタサイエンスによる査読解体、パネル合意制の否定、独断採択の導入 ⁵	伴走支援、採択プロセスの迅速化・公平性維持、研究インテグリティ管理 ²⁸
人材育成アプローチ	徹底した英才選抜(数学重	若手研究者・博士学生への

	視)、4年博士・6年一貫制、 DEIの完全排除 ⁴	経済的支援(生活費相当)、 分野横断型リスクリング ²⁹
地政学的戦略性	国家覇権の維持、技術封じ 込め、サプライチェーンの強 制的国内回帰 ⁸	戦略的自律性と技術的不可 欠性の確保、同盟国連携に よる生存圏維持 ²¹

資本動員モデルと計算資源の調達構造

米国のアプローチにおける特筆すべき要素は、財政資金の限界を前提とし、民間ハイパースケーラーの資本力とGPU資産を直接国家機構へ統合した点にある⁵。NVIDIAの10億ドルをはじめとする24億ドルの「計算資源供与」は、連邦政府が予算措置を経ずに実質的な巨大研究インフラを掌中に収めるメカニズムとして機能している³。

対照的に日本の施策は、依然として国費(補正予算や基金)を演繹的に支出し、その資金で大学や事業者が海外製クラウドやハードウェアを購入・利用するという「調達補助モデル」にとどまっている²⁴。このモデルは、投入した公的資金の多くが海外のGPUベンダーや米系クラウドプロバイダーへ還流する構造的課題を内包している。

評価・助成メカニズムと科学哲学の相違

米国は、学术界が長年依拠してきた「ピアレビュー(査読)」そのものを、独創的破壊を阻む官僚主義的病理と位置付けている⁵。単独審査員が直感で巨額資金を投じられる「ゴールデン・チケット」や、メタサイエンス局による審査プロセスの定量的・実証的検証は、既存のアカデミア秩序に対する直接的な解体措置である¹。

日本のSPReAD 1000における「一部ランダムサンプリング」や迅速審査も画期的な試みではあるが、その主眼は「若手への機会平等の付与」や「裾野の拡大」に置かれており、審査機構自体の脱構築というよりは、公平性を重視する行政機構の枠内における運用の柔軟化という性格が濃い²⁰。

重点領域における全体覇権とチョークポイント戦略

米国の優先領域は、宇宙開発、核融合、量子暗号、仮想細胞といった、21世紀の軍事・産業基盤を包括的に支配するための全方位的なフロンティアである¹。

これに対し日本の戦略は、自国の強みがどこにあるかを厳格に選別した「勝ち筋」の追求に特化している²¹。物質・材料工学(マテリアル)、計測機器産業クラスター、ロボティクス、そして製造現場に蓄積された「実験・暗黙知データ」をAIと接続するPhysical AI領域に焦点を絞り、グローバルサプライチェーンにおける「不可欠性(Chokepoint)」を握ることを狙いとしている²⁴。

日本の科学技術政策に対する制度的含意と展望

米国の急進的なイニシアチブは、日本の研究開発エコシステムに対して重大な示唆と同時に、看過しがたい構造的リスクを提示している。

第一に、計算資源の主権確保が喫緊の課題となっている。米国の科学界が民間テック企業の圧倒的な計算資源によって駆動される構造を目の当たりにするにつれ、日本におけるインフラ依存の脆弱性が浮き彫りになっている。日本が独自の基盤モデルや自律実験系を確立しようとしても、計算インフラを米系メガクラウドに依存し続ける限り、技術的自律性を保つことは困難である。この観点から、理研が推進する「富岳NEXT」を早期にAI・HPC融合環境として実用化し、国内研究者が制限なく利用できるオープンなナショナル・コンピュータ・ファシリティとして機能させることが不可欠である³¹。

第二に、実験データとフィジカル資産の優位性を死守する必要がある。大規模言語モデル(LLM)のような純粋デジタル空間でのモデル競争では米国に圧倒的な優位があるものの、分子構造、新材料合成、生体応答、精密加工といった「実世界(フィジカル)の高品質データ」の領域では、日本の実験科学と製造業の蓄積が極めて強力な武器となる²⁴。文部科学省のARiSEが掲げる「AI駆動マテリアル開発システム」のように、ロボットによる自律実験室と日本の精密計測技術を組み合わせ、クローズドループでデータを自給自足するエコシステムを早期に確立することが、対米交渉における最大のレバレッジとなる²⁴。

第三に、査読制度と研究支援ガバナンスの脱官僚化が求められる。米国のメタサイエンス構想やゴールデン・チケット方式は、日本の科研費をはじめとする厳格なピアレビュー制度に対しても重い問いを投げかけている⁵。前例踏襲や減点主義、審査員の合意形成を前提とする従来の評価軸では、分野を横断する非連続な破壊的アイデアは排除されやすい。日本においても、SPReAD 1000の挑戦的試みを一過性の補正予算事業で終わらせず、科学技術振興機構(JST)や日本学術振興会(JSPS)の基幹事業において、プログラムオフィサー(PO)の単独裁量枠や迅速交付枠を恒久的に制度化することが求められる²⁰。

第四に、科学の国家動員に伴う自律性の毀損リスクに対する警戒が必要である。米国のイニシアチブは、強力な政治的リーダーシップによって巨額資金と民間資産を動員する一方で、学界からは気候変動や環境科学など政権方針に合致しない領域の軽視、学問の自由の政治的従属、過度な実用化偏重による純粋基礎科学の空洞化といった懸念が噴出している⁵。日本が国家主導のミッション指向型アプローチを取り入れる際にも、短期的な産業的成果や経済安保上の要請のみに資源配分を過度に集中させることなく、大学ファンドなどを通じた長期的・好奇心駆動型の基礎研究基盤を複線的に防衛する高度な政策的バランスが要求される³⁸。

結論

2026年10月8日に米ホワイトハウスが打ち出した60億ドル超の科学イニシアチブは、第二次世界大戦以降の学術秩序を抜本的に再編し、国家権力と巨大IT資本を直結させて地政学的覇権を狙う「新たな科学動員モデル」の宣言であった¹。それは、AIを科学的発見の中核知能(SI)と位置付け、量子、宇宙原子力、仮想細胞、自律実験室などの物理的フロンティアを一気に制覇しようとするものである¹。

これに対し、日本は第7期科学技術・イノベーション基本計画を起点に、文部科学省の「AI for Science」推進事業(ARiSE, SPReAD 1000)や経済産業省の「GENIAC」を展開し、強みである材料科学、実験データ、フィジカルロボティクスを梃子にした「領域特化型の不可欠性」を確立しようとしている²⁰。2026年6月に締結された日米戦略的パートナーシップ(ジェネシス・ミッションへの日本の参画)は、米国の圧倒的計算資源と日本の精密な実験・材料データを相互補完させる戦略的枠組みとして機能している⁵¹。

今後、日本が国際的な科学秩序の中で埋没を回避し、主権と競争力を維持するためには、米国のスピード感、民間資本の動員力、および査読制度の果敢な実験(メタサイエンス)に学びつつも、単なる米国の下請けのデータ供給源に陥ることなく、自律的な計算基盤(富岳NEXT)の確立とフィジカル空間における独自の勝ち筋を徹底的に研ぎ澄ますことが決定的に重要となる²⁴。

引用文献

1. White House Unveils \$6 Billion Plan to Put AI at the Center of U.S.,

- <https://www.acceledesk.com/article/white-house-unveils-6-billion-plan-to-put-ai-at-the-center-of-us-science>
2. US Announces USD 6 Billion Science Push Amid Quantum Crypto,
<https://www.analyticsinsight.ae/amp/story/news/us-announces-usd-6-billion-science-push-amid-quantum-crypto-concern>
 3. White House Announces \$6 Billion Initiative; NVIDIA to Lead \$1,
<https://www.gate.com/news/detail/USD%2Fwhite-house-announces-a-6-billion-initiative-nvidia-leads-with-1-billion-in-24860023>
 4. The New Golden Age of Science: The Trump Administration's Over,
<https://floridianpress.com/2026/10/the-new-golden-age-of-science-the-trump-administrations-over-6-billion-investment-in-science/>
 5. 2026年「今世紀最も野心的な科学イニシアチブ」の全貌と制度的含意,
https://note.com/_takumi_inoue/_n/n7fbab112d5c5
 6. A Critique of Trump's Plan - Minding The Campus,
<https://mindingthecampus.org/2026/08/04/the-science-abundance-gospel/>
 7. Space Policy Edition: "Science: A New Golden Age",
<https://www.planetary.org/planetary-radio/space-policy-edition-science-a-new-golden-age>
 8. TRUMP WHITE HOUSE DECLARES A NEW GOLDEN AGE OF,
<https://www.facebook.com/DonaldTrump4President/posts/trump-white-house-declares-a-new-golden-age-of-science-and-puts-6-billion-behind/1580207597468597/>
 9. Trump Restricts 'Artificial Intelligence' in Federal Communications as,
<https://www.roic.ai/news/trump-restricts-artificial-intelligence-in-federal-communications-as-white-house-pushes-super-intelligence-rebrand-10-08-2026>
 10. SCIENCE: A NEW GOLDEN AGE | The White House,
<https://www.whitehouse.gov/wp-content/uploads/2026/07/Science-A-New-Golden-Age.pdf>
 11. KYOTO VISION FOR A GOLDEN AGE OF SCIENCE - BMFTR,
https://www.bmftr.bund.de/SharedDocs/Downloads/DE/2026/kyoto-visions-golden-age-science.pdf?__blob=publicationFile&v=1
 12. 「京都ビジョン」とは？ AIが科学研究そのものを変える - note,
https://note.com/ripe_crab6964/n/n5e4050c78221
 13. Remarks by Director Michael Kratsios at the Science: A New Golden,
<https://www.whitehouse.gov/remarks/2026/10/remarks-by-director-michael-kratsios-at-the-science-a-new-golden-age-summit/>
 14. U.S. Leads International Coalition to Endorse Kyoto Vision for a,
<https://www.whitehouse.gov/releases/2026/10/us-leads-international-coalition-to-endorse-kyoto-vision-for-a-golden-age-of-science/>
 15. Trump honours six tech giants with National Medals of Science, Technology and Innovation,
<https://www.aninews.in/news/world/us/trump-honours-six-tech-giants-with-national-medals-of-science-technology-and-innovation20261009025554>
 16. Fact Sheet: Trump Administration Announces the Most Ambitious,
<https://www.whitehouse.gov/fact-sheets/2026/10/fact-sheet-trump-administratio>

- [n-announces-the-most-ambitious-set-of-science-initiatives-this-century/](#)
17. Trump Administration Announces \$6 Billion Quantum Computing,
<https://www.gate.com/news/detail/NVDA/trump-administration-announces-6-billion-quantum-computing-and-ai-24850582>
 18. Tech Giants Contribute \$2.4 Billion in AI Resources to White House,
<https://www.pymnts.com/news/artificial-intelligence/2026/tech-giants-contribute-2-billion-dollars-ai-resources-white-house-science-mission/>
 19. Seventeen Countries Back a Kyoto Vision for AI-Powered Science,
<https://kingy.ai/news/kyoto-vision-ai-powered-science-17-countries/>
 20. AI for Scienceとは？文科省の戦略方針とSPReAD 1000 ... - TIMEWELL,
<https://timewell.jp/columns/ai-for-science-mext-guide>
 21. AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針,
https://www.mext.go.jp/content/20260403-mxt_jyohoka01-000048752_1.pdf
 22. AI for Scienceの政策動向,
https://www.tfc.tohoku.ac.jp/tfcfund/2026/tel_e02_02/slide_E02_02_Kudo.pdf
 23. AI for Science の推進に向けた基本的な戦略方針(政策概要),
<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20260521/siryo1.pdf>
 24. 「AI for Science」による科学研究革新プログラム」について,
https://www.mext.go.jp/content/20260310-mxt_jyohoka01-000048068_5.pdf
 25. 文部科学省、「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」を,
<https://current.ndl.go.jp/car/277076>
 26. 「AI for Science」による科学研究革新プログラム」プロジェクト型,
https://www.mext.go.jp/content/20260327-mxt_jyohoka01-000048596_5.pdf
 27. AI for Scienceの研究費を眺めて、科学の競争軸が変わり始めている,
<https://note.com/amiyashita/n/n3b8e84d777d8>
 28. AI for Science による科学研究革新プログラム,
https://www.mext.go.jp/content/20260416-mxt_jyohoka01-000049067_001.pdf
 29. SPReAD 1000 - 研究の可能性を、AIで解き放つ - 文部科学省,
https://www.mext.go.jp/aifors_spread/
 30. 「AI for Science」による科学研究革新プログラム」チャレンジ型,
https://www.mext.go.jp/content/20260327-mxt_jyohoka01-000048596_6.pdf
 31. Science of AI の推進について(検討案) - 文部科学省,
https://www.mext.go.jp/content/20260629-mxt_jyohoka01-000050750_3.pdf
 32. 生成AIの開発力強化に向けたプロジェクト「GENIAC」において,
<https://www.meti.go.jp/press/2025/07/20250715001/20250715001.html>
 33. GENIAC第4期16件採択が示す「現場特化・小型AI」への転換 | GXO,
<https://gxo.co.jp/column/geniac-4th-16-adoption-domain-specific-ai-20260625>
 34. GENIACとは？第4期の採択企業16件・予算を解説【2026年版】,
<https://arpable.com/artificial-intelligence/geniac-japan-ai-sovereignty/>
 35. 「GENIAC」における計算資源の提供支援(第4期)において,
<https://www.meti.go.jp/press/2026/06/20260604003/20260604003.html>
 36. GENIACは、もうGPU支援だけではない。 | Arpable | AI×経営・戦略,
<https://note.com/arpable/n/n3f21cce6571d>
 37. AIロボット・フィジカルAIを見据えたマルチ モーダル基盤モデル,
https://www.meti.go.jp/policy/policy_management/ebpm/kensyo_shinario/260413

[_multimodal.pdf](#)

38. 国際卓越研究大・東北大への「低配分」と「出資負担」,
<https://www.zaiten.co.jp/article/2026/08/post-1532.html>
39. 大学ファンド、2025年度は過去最高益3,158億円...JST公表 - リシード,
<https://reseed.resemom.jp/article/2026/07/03/13611.html>
40. 10兆円ファンドが映し出す日本の大学序列——国際卓越研究 ... - note,
https://note.com/kind_walrus6206/n/n88e43f26d46e
41. 10兆円規模の大学ファンド 2025年度は3,158億円の黒字達成 京都,
<https://univ-journal.jp/999334/>
42. 京大「国際卓越研究大学」に正式認定、最長25年にわたり年間数,
<https://www.yomiuri.co.jp/local/kansai/news/20260801-GYO1T00018/>
43. 国際卓越研究大学とは？ 認定3校のメリット・デメリット【2026年版】,
<https://semiconedu.com/takuetsu2025/>
44. 大学ファンド25年度運用益3158億円で過去最高 - BigGo ファイナンス,
<https://finance.biggo.jp/news/53184ed2-2b67-45fd-b403-1460f08b9799>
45. 経済安全保障重要技術育成プログラム通称:K Program 英名 - 内閣府,
https://www8.cao.go.jp/cstp/anzen_anshin/kprogram.html
46. K Program 経済安全保障重要技術育成プログラム(JST),
<https://www.jst.go.jp/k-program/>
47. ムーンショット型研究開発事業 - NEDO,
https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP_100161.html
48. ムーンショット計画の企業事例 | トヨタ等の研究開発テーマ、国策,
<https://www.isz.co.jp/circular/column/2049/>
49. ムーンショット型研究開発制度に係る 戦略推進会議(第7回) 目標,
https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20230119/siryo2-1_1.pdf
50. 日本のAI for Scienceの取組と米国の「ジェネシス・ミッション」と,
https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kokusai/kyoryoku/mext_00015.html
51. 日本のAI for Scienceの取組と 米国の「ジェネシス・ミッション」と,
https://www.mext.go.jp/content/20260629-mxt_jyohoka01-000050750_2.pdf
52. AI事業「ジェネシス・ミッション」で連携...1600億円を共同投資へ,
<https://www.sbbi.jp/article/cont1/185593>
53. 日米が戦略連携、AI×先端科学技術に10億ドル投資 - リシード,
<https://reseed.resemom.jp/article/2026/06/05/13398.html>
54. AIで科学研究を変革 米国の国家計画に日本が800億円拠出へ - 毎日新聞,
<https://mainichi.jp/articles/20260604/k00/00m/040/358000c>
55. アメリカのAI国家プロジェクト「ジェネシス・ミッション」,
<https://www.yomiuri.co.jp/world/20260605-GYT1T00102/>
56. Science: A New Golden Age : r/neoliberal - Reddit,
https://www.reddit.com/r/neoliberal/comments/1v30rbl/science_a_new_golden_age/
57. What "Science: A New Golden Age" means for afterschool STEM,
https://www.afterschoolalliance.org/afterschoolsnack/What-Science-A-New-Golden-Age-means-for-afterschool-STEM_09-01-2026.cfm